

平成 27 年度 第 1 回総合教育会議 会議録

日時：平成 27 年 4 月 23 日(木) 午後 3 時 40 分～午後 5 時

場所：村民センター小会議室

<出席者>

村長	唐木一直
教育委員長	清水 篤彦
教育委員長職務代理者	三澤 久夫
教育委員	太田 光子
教育委員	林 百代
教育委員	征矢 鑑（教育長）
事務局	藤澤教育次長 伊藤泰子 以上 8 名

1. 開会

教育次長

開会に伴い南箕輪村と教育委員会との協議・調整の場となり、義務付けられていることを報告。

2. あいさつ

(1) 村長

教育委員全員の出席と日頃の尽力への感謝。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、この総合教育会議の位置付けが義務付けられた。村の教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策の目標、方針を定める大綱を策定することも法定化され、当日の会議を皮切りに協議を進めさせていただきたい。いじめの問題をはじめ子どもをどう守っていくかといった問題、取り組んでいかなければならない課題は山積。教育委員会が担当する分野だけの話ではなく、村長部局で担当している分野とも複雑に関連しており、この会議の意義、重要性は非常に高いものとなっている。人口増対策、特に保育園や小中学校の施設整備は急務。今年度、来年度の 2 か年で一定の目途をつけたい。平成 28 年度での建設に向けて、仮称「こども館」や中学校特別教室棟の用地確保及び設計の取組みを進めている。これらは大きな課題もあり教育委員会としっかり連携し、成し遂げていきたい。子どもたちは、この村の宝であり村民の皆さんのご理解、ご協力をいただきながら、全力で取り組んでいきたい旨等を述べられた。

(2) 教育委員長

村長に対し「第 1 回南箕輪村総合教育会議」への出席、住民福祉課・子育て支援課との連携を図ることが大切で、意見交換ができることへの感謝。教育環境の充実・教育内容の充実等、責任を感じていること等述べられた。

3. 協議事項：今後の教育施策の運営について（意見交換）

教育次長

話し合いの方法を指名ではなく、意見交換により行うことで各委員の理解を得た。

(1) 教育長

子どもがどんなふうが増えていくのか、どんな建物が必要なのか。現在の建物で収まるかを考えている。検討していかなければならないこと、いろいろな障がい等山積み。これかれの進め方について、村長から示唆していただければと思う。また、障がいをもっている子どもが増え、教室の整備を考えていること等を述べられた。

(2) 村長

総合教育会議で「教育大綱」を決めなければならない。施設整備については、より慎重にやっていかなければと考えている。今年度仮称「こども館」の設計費用を計上、また、調整委員会で内容を検討中。用地はほぼ目途がついているが、施設の内容は教育委員会の中で練ってほしい。南部小学校は、平成31年度に2クラスの増築建設予定。南箕輪中学校については、理科室用地費・設計費は計上している。当面できるところから、用地を確保し、解決していかなければならないが施設整備については以上のように考えている。一番心配しているのは、特別支援学級・中間教室の支援・不登校の問題。学力の向上は、大綱の中で掲げなければという考えを持っている。教育委員会の協力をお願いしたい。発達障がいのお子さんの問題は、教育委員会で、方向性を出していただきたいこと等を述べられた。

(3) 教育委員長

「村第4次総合計画 1 学校教育の課題」から課題が4つ挙げられている。人口増に伴い、準要保護家庭が増加している。給食費の未納にもつながっている。児童生徒数の増加を見込んだ対応は大変有り難い。中学校特別教室棟は、地権者との話し合いが必要。特別教室の暑さ対策お願いしたい。放課後学習を配慮していただき感謝。今後、参加しない生徒をどうしていったらよいのかが課題。今年度は研修視察で、他県から学び学校で活かしていきたい。村で採用している関係支援員について感謝。また、原級との交流も必要で高学年になる大変で今後の課題。家庭教育についてネット・スマホの普及等、家庭教育でどのようにしていったらよいのか今後検討が必要等を述べられた。

(4) 村長

支援員については費用が掛かっても継続していきたい。要保護・準要保護就学援助費の対象者が、増えていくことは課題。一人親が増えれば当然増え、離婚率が3割の時代なので心配な状況。平成27年度から「チャレンジ・ステップアップスクールサポート事業」、小中学校校長裁量事業補助金計上している。特色ある学校づくり・学力向上等で活用されたいこと等を述べられた。

(5) 職務代理者

仮称「こども館」建設の英断に感謝。南箕輪小学校の放課後児童クラブは人数が増えてきており、様々な課題・問題を抱えている。村民体育館 2 階を活用してのスタートで、今年は落ち着いている様子。クラス分けは、苦慮されており、1・2 年生を 2 クラスに分けて指導しやすくしている。また、特別支援学級の子ども、問題行動を起こしやすい子どもへの対応は、非常に苦慮されている。支援員側の課題もあるが高齢化傾向にあり、若い人を入れて欲しい声がある。保護者からは、学習指導・料金の見直し等の希望がある。教育委員会の他市町村視察について、昨年秋、朝日村・原村の学童クラブを視察した。施設設備面だけでなく、人的面での充実の重要性を実感した。仮称「こども館」は、子育てに関する総合的支援センター的な機能を確保していただきたい。間に合わせた的な施設を造るのではなく、上伊那でのモデルケースとなるような施設を希望する。運営を含めて、十分検討していただきたい旨等述べられた。

(6) 村長

財政も厳しい状況。全てを一つにというわけにはいかない。人的な充実はそのとおり。支援員の確保は難しいが、誰でも良いというわけにはいかない。何としても、仮称「こども館」を造らなければいけないこと等述べられた。

(7) 太田委員

若い先生がいると、子どもたちもなついて飛び込んでくる。子どもたちが、安心して飛び込んでいける、若い人が入ってくれば嬉しい旨述べられた

(8) 教育次長

今年から、若い支援員が入っていることを伝えた。

(9) 村長

地方創生で切れ目のない子育て支援を、人的確保の充実を考えていかなければならない旨述べられた。

(10) 教育委員長

人的確保は難しいことを述べられた。

(11) 村長

視察研修をして、良いところを活かして欲しい。子育て支援は、若干、値上げをしても充実が必要かもしれない旨述べられた。

(12) 太田委員

「かま塾」で絵手紙に携わっている。地区の行事・遊び等、隔週、時期に合わせた講座を展開している。「親子わんぱくランド」は、多くの親子の参加があった。「かま塾」のような活動が、各地区にあれば大人も張り合いがあり、未加入者も減少するのではないかと述べられた。

(12) 村長

「かま塾」のような組織が、それぞれの地域で出来ればと、私の願いでもあり、今日まで引き継がれていることは素晴らしいこと。大泉でも、子どもたちを集めて活動をしている。核になる人材がいれば広がっていくこと等を述べられた。

(13) 林委員

保護者の目線から、意見交換させていただく。南部小学校ではいろいろな体験を通して、自分で考え、行動し、解決する力をつけていただき。子どもたちを取り巻く環境が、変ってきており、母校に誇りを持つそんな学校であって欲しいと思う。

(14) 村長

南部小学校へ入りたいという声を聞く。それだけ魅力があるということ。小規模校の良さを活かしていきたい等述べられた。

(15) 林委員

南部小では、以前学校の近くで不法投棄があり、直ぐに、村長さんが対応してもらった。子どもたちの「声」を大切にしてください感謝。それ以来村に対して親近感をもったことについて述べられた。

(16) 村長

子どもたちと接する機会を、増やしていただければと考えていることについて述べられた。

(17) 教育委員長

南箕輪村の良さを、大切にしていきたい。南箕輪中学校の生徒は挨拶がよくでき、挨拶は大人と子どもを近づけることができる。核家族化で、人間関係が希薄になっており、自分たちから積極的に挨拶をしていけばと考えていることを述べられた。

(18) 村長

挨拶は学校で指導をして欲しい旨述べられた。

(19) 太田委員

今はやたらに声をかけると不審者と思われるので難しいことを述べられた。

(20) 職務代理者

大人から声をかけると、不審者と言われてしまう。中川村では、作文や有線放送等で、挨拶運動を徹底していたことについて述べられた。

(21) 教育次長

仮称「こども館」の建設に対して、施設よりも運営が大切という意見の中で、平成 29 年 4 月供用開始でないといけないのか村長に確認。

(22) 村長

継続でも仕方ないと考えている。遅れても半年か 1 年。用地は現在確保している。建て方の工夫をしながら、用地の活用を考えていかなければならない旨述べられた。

(23) 教育長

南箕輪小学校は、空き教室がないので計画通り進めていただくことを希望する旨述べられた。

4. 閉会

教育次長

予定時間となり、原則本総合教育会議は村長が招集するが、今回は教育委員会

で進めた旨発言し終了。